

今後のリスクコミュニケーションの進め方について（案）

1 開催状況

- (1) 厚生労働省では、本年度から「化学物質による労働者の健康障害防止に関する意見交換会（リスクコミュニケーション）」を開始した。

開催テーマとしては、当省における化学物質による労働者の健康障害にかかるリスク評価に関する情報提供を行う観点から、

- ① リスク評価対象物質・案件の選定の考え方
- ② ばく露評価の進め方
- ③ リスク評価結果を受けて規制の対象とした物質に関する関係業界の対応状況等を採用した。

- (2) 開催状況は以下のとおり（詳細は資料 3 - 1 及び参考 2 参照）。

- ① 第 1 回意見交換会（平成 21 年 7 月 29 日（水）都内 参加者約 120 人）
 - ・ 情報提供：1 時間 5 分
 - － 労働者の健康障害防止に関するリスク評価の現状及び今後の取組み
 - － 健康障害防止措置の導入状況及び今後の評価対象物質
 - － 日本における化学産業のリスクアセスメント現状
 - － 化学物質のリスク評価の実際
 - ・ 意見交換：1 時間 30 分
- ② 第 2 回意見交換会（平成 21 年 12 月 11 日（金）都内 参加者約 140 人）
 - ・ 情報提供：1 時間 10 分
 - － リスク評価対象物質・案件の選定の考え方
 - － 今後のばく露評価の進め方
 - － ホルムアルデヒド規制に対する病理部門を中心とした医療業界の対応
 - － ニッケル化合物規制にかかるニッケル協会の取組み及びリスク評価への提言
 - ・ 意見交換：1 時間 30 分

- (3) なお、2 回の意見交換会において、参加者から提出された要望等は以下のとおり（詳細は資料 3 - 1 及び参考 2 参照）。

- ① テーマについて
 - ・ 中小事業場を含む各社の取組み事例の紹介
 - ・ 発がん性、遺伝毒性、生殖毒性等有害性情報の紹介

- ・ 一定程度の専門知識を有する方を対象にするものと、一般向けとの区分
 - ・ ホルムアルデヒド等を取り扱う医療分野における労働安全衛生法令の規制の紹介
 - ・ 医療分野以外におけるホルムアルデヒド等を製造・取扱い事例の紹介
 - ・ ナノマテリアルの規制等の紹介
 - ・ フィジカルリスク評価に関するテーマ
 - ・ テーマが広すぎてポイントが絞れない面がある
 - ・ 的外れのテーマであった。
- ② 意見交換会の持ち方について
- ・ 東京近郊以外の大規模地方都市における開催
 - ・ 一般向けと専門家向けの意見交換会を分けて欲しい。
 - ・ 意見交換会で明確な回答が得られなかった点は、議事録等の公開時に追加情報を掲載して欲しい。

2 今後の進め方（検討事項）

1を踏まえ、今後の意見交換会が効果的かつ効率的なリスクコミュニケーションとなるよう、以下の点等について検討を要する。

なお、検討結果については、次年度の「労働者の健康障害防止にかかる化学物質のリスク評価方針」に盛り込むとともに、必要に応じ、リスクコミュニケーションの方針等としてとりまとめることとする。

(1) どのようなタイミングで意見交換会を開催していくべきか？

(参考) リスク評価にかかる手順

- ・ リスク評価対象物質・案件の選定
- ・ 初期リスク評価
- ・ 詳細リスク評価
- ・ 健康障害防止措置の検討
- ・ 規制措置の導入（法令による規制の公布、施行）

(2) どのようなテーマを取り上げるべきか？

(3) 効果的かつ効率的な意見交換会とする上で、どのような持ち方が適当か？

(4) その他